花筐小学校「国語」・「算数」の力と学習や生活の様子

～『R8全国学力・学習状況調査（2026.4.23　6年生が実施）』結果から　～



国　語

◎は良いところ　▲は伸ばしたいところ

①「学習指導要領の5内容における結果」から

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」において全国の平均を上回っていますが、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の3つの領域・事項において課題が見られました。

②『正答率の高かった問題』

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題2問のうち、1問が特によくできています。今後も、新出漢字を中心としたドリル学習だけではなく、継続して日記も書くなどして、既習の漢字を使用する習慣を身に付けることができるように指導します。

◎「読むこと」領域の「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」問題がよくできています。読んで理解した文章から自分の考えを形成し、自分の経験と結び付けてまとめることができています。今後も児童同士で考えを交流して自分の考えを明確にしたり、考えの質を高めたりできるように指導します。

③『課題として』

▲「書くこと」領域の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題に課題が見られました。授業では「引用」の目的について考える場面、児童が書いた文章を交流して説得力があるかどうかを考える場面を設定して、自分の考えを伝えるための工夫を捉えられるように指導します。

▲「話すこと・聞くこと」領域の「相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考える」問題に課題が見られました。授業では、相手に伝えるために話す目的や意図が明確になっているか、話の中心と挙げた事例が合っているかを確かめられるように指導します。

▲「情報の扱い方に関する事項」の「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との表し方を理解し使う」問題に課題が見られました。授業では、文章を読んで理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句を線でつないだりして、目的に応じて情報を整理する力を身に付けられるように指導します。

算　数

①「学習指導要領の5領域における結果」から

◎「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の4つの領域において、県・全国の平均を大きく上回りました。「数と計算」の領域については、平均レベルを保つことができています。

②『正答率の高かった問題』

◎「変化と関係」領域の「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求める」問題がよくできています。百分率を用いた割合の表し方をよく理解することができています。今後も問題場面から基準量、比較量、割合の関係をしっかり捉え、児童が自ら関係図や数直線に数量を書き込み、基準量を求めることができるように指導します。また、生活場面で使用頻度の高い百分率の意味も改めて押さえ、百分率を求めたり用いたりすることができるように指導します。

◎「数と計算」領域の「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する」問題ができています。分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を正確に判断することができています。今後も、いくつかの方法で分数の大小を比べることによって、分数の表し方について理解を深めることができるように授業を工夫していきます。

③『課題として』

▲「数と計算」「変化と関係」領域の「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ」問題に課題が見られました。授業では、示された基準量と割合から、比較量を捉えることができるように指導します。具体的には、図を考える活動等を設定し、基準量とその 2 倍や 3 倍に当たる量を比較することを通して、基準量の 1 倍、1.5 倍、2.5 倍等の意味を理解できるようにします。さらに、基準量の大きさを変えて同様の活動を行い、割合についての理解を深めることができるように繰り返し指導します。

▲「数と計算」領域の「数を四捨五入して、概数で表す」問題に課題が見られました。四捨五入について知り、例えば、5 桁の概数を「約何万」と表すのか、「約何万何千」と表すのか見通しをもって概数で表すことができるようにします。授業では、数直線等を用いて、どの位を四捨五入すればよいかを理解することができるように指導します。



学習と生活の様子

◇よい傾向　◆心配な傾向

【家庭や地域に関すること】

◇朝食を毎日食べて、1日のスタートをきっている児童の割合が県・全国平均を上回っています。また、毎日同じくらいの時刻に起きて寝る、規則正しい生活がほぼ身に付いています。

◇地域や社会をよくするために何かしてみたい、人の役に立つ人間になりたいと答えている児童の割合が全国・県平均を上回っています。

◆学校の勉強について親や家族と話す児童の割合は県・全国平均レベルですが、学校での悩みについてはほとんど話さない児童の割合が県・全国平均を上回っています。

◆学校の授業時間以外や休みの日の、1日あたりの勉強時間や読書時間が少ない傾向にあります。

【学校生活に関すること】

◇学校に行くのが楽しく、友達関係に満足していたり、学級での発言が否定されない安心を感じたりしている児童の割合が県・全国平均を上回っています。

◇国語や算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童、将来、英語を使いたいと答えている児童の割合が県・全国平均を上回っています。

◆多くの児童がICT機器を使って文章を作成したり、情報を収集・整理したりすることができると答えていますが、学校での活動でプレゼンテーションを作成することができると答えた児童はやや少ない傾向にあります。

【自分自身に関すること】

◇自分にはよいところがある、将来の夢や目標をもっていると答えている児童の割合が、全国・県平均を上回っています。

学力面との関係で分析すると、◎自分と違う意見について考えることは楽しい。
◎授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。

と答えた児童ほど、正答率が高くなっています。